

動物形態機能学

		シラバス(概要)
履修条件	自律学習修了し「自律学習理解度確認課題」を提出した者	動物の生命維持の仕組みと、解剖学及び生理学の基礎知識を確認し、生命体としての動物を理解できるようにする。解剖学では動物体の構造について、生理学では動物体の機能について学習してきたので、疾病を持つ動物を理解する際にも、解剖学や生理学の知識が活用できるようにする。また、それらを正しく理解し、診療チームとしてより有効な動物看護ができることを目指す。既存の学習においては、器官別に構造や機能について学び、自律学習においてはそれらの基本的知識の復習をしてきたが、対面授業の3時間においては動物の体を複合体として見直し、臨床の場において健康の維持に必要な形態的機能的に必要な知識を統合的に修得し、疾病を持つ動物の看護に活用できるようにする。
ユニット	高位平準動物看護学	
科目名	動物形態機能学	
履修時間	ユニット150時間中3時間	
回数	10回中の1回	
授業形態	対面授業	評価方法
作成者		
教科書	①高位平準動物看護概論(平成27年度成果物) ②動物看護コアテキスト2 動物からだの構造と機能(ファームプレス)	本講座3時間目に対面学習確認テストを実施する。また、10回目授業時に最終確認テスト(8教科分:五択問題)を受け、60%以上正答の受講者には修了証が発行される。
参考図書		

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	・自律学習の成果を基礎とした動物形態機能学の概要まとめ ・動物の体の構造において器官の連携性を見直し、動物の看護に活用するために必要な形態機能学の知識のまとめ～情報を伝える、感じるシステムについて～	1.シラバスとの関係	動物形態機能学を動物看護師が学ぶ意義が理解できていることを基本とする。	
		2.コマ主題	自律学習による基本的知識の見直しを基として動物の体を一つの統合体として見られるようにする。	
		3.コマ主題細目	情報を伝えるためのシステムを理解し、体が一つの個体として統制をとるために持っているシステムを知る。	
		4.コマ主題細目深度	臨床の場で獣医師と協働し、動物の疾病の予後及び予防を理解し現状の看護に活かすために必要な形態機能学をの基本を見直しと共に、すべての元となる神経系について理解し、神経系によって司られている臓器の機能を理解する。伝えられた情報により感じ、情報を伝えるシステムについて知る。	
		5.次コマとの関係	神経系によって司られているからだのシステムを理解し、統制されている呼吸器系、消化器系について理解する。	
2	動物の体の構造において器官の連携性を見直し、動物の看護に活用するために必要な形態機能学の知識のまとめ～動く、息を吸う・吐く、食べる、栄養を運ぶシステムについて～	1.シラバスとの関係	動物が生きているために絶対必要である呼吸と栄養について、神経的支配によるこれらのシステムを理解する。	
		2.コマ主題	骨格を構成する骨、関節、体を動かす筋肉のシステムについて理解する。また、動くために必要な酸素の取り入れ、栄養の吸収システムについて知る。	
		3.コマ主題細目	臨床の場で必要な、動きの統制異常や循環器異常、栄養異常により多くみられる疾病を理解するために必要な知識として呼吸器系と消化器系のシステムについてまとめ、修得する。	
		4.コマ主題細目深度	からだを動かすためには神経系による統制、正しい酸素の運搬、栄養の吸収が必要となる。これら器官別機能が体を調整する神経系、内分泌系のメカニズムによって調整されていることを再確認し、動物の健康維持と疾病を持つ動物の看護に活用できる知識として修得する。	
		5.次コマとの関係	体内に吸収されたものを排泄するシステム、動物の本能である子孫を残すことやそれらを調整するメカニズムについて学ぶ。	
3	動物の体の構造において器官の連携性を見直し、動物の看護に活用するために必要な形態機能学の知識のまとめ～トイレに行く、子供をつくる、調製するシステムについて～	1.シラバスとの関係	動物の本能である自分の子孫を残すことと、体内に蓄積される老廃物の排泄システムについて学ぶ。	
		2.コマ主題	排泄と繁殖という動物にとって不可欠な行為のシステムについて学ぶ。	
		3.コマ主題細目	生まれてすぐの動物も必ず行うことが排泄であり、からだになくてはならないしくみである。動物の排泄が必須であることを再確認し、そのシステムを学習する。繁殖の摂理を知り、ホルモンによる支配を理解する。	
		4.コマ主題細目深度	からだにとって必要不可欠な反応として排泄がある。また、動物のその個体が生存する意味の主題に繁殖があり、自分の子孫を残すことがある。これらの重大なシステムを理解し、臨床の場でこれらの系統に障害がある動物の看護に活用できるようにする。	
		5.総まとめ	動物形態機能学受講の総まとめとして、理解度確認テストを実施する。	